

第3学年 総合的な学習指導案

日 時 平成21年11月5日(木) I校時
児 童 男子20名 女子21名 計41名
指導者 T1 木村 育実
T2 浅沼 清智
場 所 会議室

1 単元名 ゆもとのすてきを見つけよう パート3

2 単元について

総合的な学習は、3年生になって初めての学習である。そこで、「もの」「こと」「ひと」の視点で自分たちの町を見直す学習活動を3回組み込んだ大単元「湯本のすてきを見つけよう」を構成した。その中で、総合的な学習の学び方や「課題をたてる→調査する→まとめる」という問題解決学習の基本型を繰り返し学ばせることにした。

その第3弾である本単元では、自分たちの住む湯本地区の素晴らしさを「ひと」の視点で見直し、調べたことをそれぞれの表現方法でまとめ発表する学習をする。これまで「もの」「こと」の視点で湯本のすてき調べをしてきたが、それらを支えているものは児童の身近にいる人々の働きや努力である。本単元では、まずは児童が取り組みやすい「スーパー湯本人(仮称)」（何かに秀でている人）を題材に学習活動を進め、その発展として温泉体験を通して働く人へと目を向けさせていきたい。そして自分たちの住む湯本には、願いやこだわりを持ち日々努力して働いたり活動したりしている人々がいて、ともに支えられ生きているのだということを感じ取らせたい。

パート1は総合的な学習の時間のオリエンテーションとして、花巻広域公園を題材に、「広域公園の素晴らしさを伝える」という学習を行った。その学習を通して児童は、「課題をたてる→調査する→まとめる」という学習の仕方の基本を学んだ。自分たちの立てた計画のもと調べたり、まとめたりする学習活動に児童は意欲的に取り組むことができた。

パート2では、グループごとに調べたい事柄について知っていること、知りたいことを整理しながら課題作りをし、調べ学習を行った。グループで共同して学習に取り組むことができるよう、自分の考えを持ち考えを出し合う活動を取り入れてきたが、自分たちで話し合いを進めることはなかなか難しいのが現状である。

パート3では、パート1、パート2での学習をもとに、次の3つの点を重点に学習を進めることとする。

- ① 課題の発展—これまでの学習を新しい視点で振り返らせることにより、自分たちの住む湯本をいろいろな角度から見直すという経験をさせる。
- ② 多様な表現方法—パート1パート2では、発表の表現方法を、統一してまとめさせたが、パート3では、伝えたい内容に即した表現方法について児童に考えさせる。
- ③ 学習形態の工夫—友達と協力して調査したりまとめたりしながら、互いに高め合えるような学習グループでの活動を工夫する。

3 単元のねらい

人を視点に湯本のすてきを調べる活動を通して、自分の住んでいる地域のすばらしさに気づき思いを深めることができる。

【課題発見力】

- ・湯本地区で活動する人に目を向け、課題を立てることができる。

【企画力】

- ・グループで話し合い、調べ方や手順、役割分担を考えることができる。

【実行力】

- ・グループで協力し合い、インタビューや写真撮影、体験活動を行い、情報を収集することができる。

【情報活用力】

- ・素晴らしさとは何なのか、みんなに伝えたいことは何か具体的な視点を持って情報を選択することができる。

【表現力】

- ・調べたことや思ったこと、感じたことを分かりやすくまとめ、発表することができる。

4 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
課題発見力	① 「ひと」をテーマに立て、その視点を話し合うことができる。 ② 調べたいことをテーマに即して話し合い、課題を作ることができる。
企画力	① 情報収集のための方法を考えることができる。 ② グループの人と協力して、調べ方や手順、役割分担を考えることができる。
実行力	① グループの人と協力して、インタビューや写真・ビデオ撮影・体験活動を行い、情報を収集することができる。
情報活用力	① 集めた情報を視点をもとに選択したり、整理したりすることができる。 ② 情報を効果的に表現するための手法を考えることができる。 ③ 自分の町に対する思いを持つことができる。
表現力	① 調べたことをそれぞれの表現方法でまとめることができる。 ② 調べたことを発表し合うことができる。

5 単元指導計画（計 26 時間）

段階	時間	ねらい ・学習活動 【評価規準】	工夫と手立て
見 付 け る	(2) 本 時 1/2	○「ひと」に視点を当てた課題作りができる。 ・「ひと」の視点での学習であることを知り、 その追究方法を考える。〔1〕【課①】 ・情報をもとに詳しく調べてみたいことを話し 合い、課題を設定する。〔1〕【課②】	【学習の想起】 ・パート2で人を介した調べ活 動をした児童の感想を生か す。 【感想の整理】 ・「スーパー湯本人」の視点を 考えさせる。

立てる	(3)	<p>○課題解決に向かって、調べ方を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習グループを作り、課題の具体化を図る。 〔2〕【企①】 ・課題についての調べ方・記録の仕方を確認させ、まとめ方を話し合う。〔1〕【企②】 	<p>【調べ方の提示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動をビデオや写真で記録する。 <p>【まとめ方の提示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ・ポスター・実演等、まとめ方を提示する。
求める	(5)	<p>○課題解決に向かってグループで協力しながら、調べ活動を行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューや体験活動を通して調べる。 〔4〕【実①】 ・活動の振り返りを行う。〔1〕【実①】 <ul style="list-style-type: none"> ・したこと ・はじめてわかったこと ・みんなに伝えたいこと ・感想ほか 	<p>【体験活動の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー・体験活動の時間を確保する。
まとめる	(3)	<p>○調べたことや分かったことを発表し合い、みんなに知らせたいことをまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことから、素晴らしさや初めて分かったことを話し合う。〔2〕【情①】 ・みんなに伝えたいことを決める。〔1〕 【情①②】 	<p>【情報の選択】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湯本のすてきのテーマに即し、伝えたいことを中心に情報をまとめる。 <p>【効果的な表現の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心とまとまりを意識させる。国語や社会の学習と関連させる。
広げる	(13)	<p>○みんなに伝えたいことをそれぞれの表現方法でまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表準備をする。〔3〕【表①】 ・発表する。〔2〕【表②】 <p>○これまでの学習を振り返り、「ひと」の観点で湯本の素晴らしさを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人に出会ったことを想起し、身近に一生懸命働いている人の存在に気付く。 〔1〕【情③】 ・花巻温泉の体験活動を行う。〔4〕【実①】 ・温泉体験をしてわかったことをまとめる。 〔2〕【表①】 ・身近な働く人に関心を持つ。〔1〕【情③】 	<p>【体験活動の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉を支える人々の仕事の内容や努力・願いを体験的に学ばせる。 <p>【社会科との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「働く人を調べよう」と関連させ、個人テーマを持たせる。

6 本時の指導

(1) 仮説とのかかわり

仮説1：気付きや課題意識をもたせるための工夫にかかわって

<学習の想起>

今まで出会った人たちの素晴らしさを振り返らせることにより、「ひと」という視点で湯本の素晴らしさを見直してみようとする意欲を持たせる。

<感想の整理>

児童の人に対する様々な感想から、「ひと」に関わろうとする意欲と課題、そして「スーパー湯本人」を選び出す視点を児童とともに作り出していく。

(2) 学習のねらい

「スーパー湯本人」（仮称）を選択する視点を具体的に話し合い、「ひと」という視点で湯本のすてきを見つけようとする意欲を持つことができる。

【課題発見力】

・「ひと」をテーマに立て、その視点を話し合うことができる。

(3) 本時の展開

段階	学習活動・予想される児童の反応	・留意点 ◇支援 ☆評価
導入 8分	1 パート2の学習を想起する。 ・たくさんのすてきを見つけてきた。 2 「ひと」を視点に学習を振り返る。 ・伝統を受け継ぐことは素晴らしい。 ・物を大切にするとすることを学んだ。	・「神楽」や「もったいない文庫」の調べ学習を行った児童の感想を生かし、「ひと」への方向づけを行う。 ◇これまで出会った人々を思い出させるために、学区マップを提示する。
活動 32分	3 「ひと」を視点に題材を選び出す。 ①これまでに、出会った人たちを想起する。 ②その人たちの素晴らしさをチームごとにまとめる。 ③発表しあう。 ・願いや考えを持って活動している人 ・こだわりを持って仕事をしている人 ・技を持っている人 4 学習課題を立てる。 ①発表に対する感想を持つ。 ②「ひと」も湯本のすてきに入ることに気付く。 ③選び出した「ひと」の総称を考える。 スーパー湯本人(仮称)を見つけよう。 5 選択の視点を確認する。	・テーマである「湯本のすてき」に沿って選択の視点を考えさせる。 ◇「スーパー湯本人」（仮称）と名付けることにより、意欲の喚起と学習活動の見通しを持たせる。 ☆テーマである「湯本のすてき」に沿って「スーパー湯本人」（仮称）を選択する視点を具体的に話し合うことができたか。

ま と め 5分	6 次時の予告をする。 ・探し出したスーパー湯本人を紹介する ことを知る。	・次時の学習活動について知らせる。 ☆「ひと」という視点で湯本のすてきを見 つけようとする意欲を持つことができた か。
-------------------	---	--

6 本時の指導

(1) 仮説とのかかわり

仮説1：気付きや課題意識をもたせるための工夫にかかわって

<学習の想起>

今まで出会った人たちの素晴らしさを振り返らせることにより、「ひと」という視点で湯本の素晴らしさを見直してみようとする意欲を持たせる。

<感想の整理>

児童の人に対する様々な感想から、「ひと」に関わろうとする意欲と課題、そして「スーパー湯本人」を選び出す視点を児童とともに作り出していく。

(2) 学習のねらい

「スーパー湯本人」(仮称)を選択する視点を具体的に話し合い、「ひと」という視点で湯本のすてきを見つけようとする意欲を持つことができる。

【課題発見力】

・「ひと」をテーマに立て、その視点を話し合うことができる。

(3) 本時の展開

段階	学習活動・予想される児童の反応	・留意点 ◇支援 ☆評価
導入 8分	1 パート2の学習を想起する。 ・たくさんのすてきを見つけてきた。 2 「ひと」を視点に感想を持つ。 ・読み聞かせの会に参加して楽しかった。 ・絵を見てくれてうれしいな。	◇ビデオレターを見せる。 ・「湯本美術館」の館長さんとの関わりを思い出させ、「ひと」への方向づけを行う。
活動 32分	3 めあてを確認する。 今まで出会った人をしようかいしよう。 ①これまでに、出会った人たちを想起する。 ②その人たちの素晴らしさをチームごとにまとめる。 ③発表しあう。 4 選択の視点を考え、学習課題を立てる。 ①発表に対する感想を持つ。 ②「ひと」も湯本のすてきに入ることに気付く。 ③選び出した「ひと」の総称を考える。 スーパー湯本人(仮称)を見つけよう。	◇これまで出会った人々を思い出させるために、顔写真を提示する。 ◇T2: ボランティアティーチャーの素晴らしさを補足する。 ・テーマである「湯本のすてき」に沿って選択の視点を考えさせる。 ◇「スーパー湯本人」(仮称)と名付けることにより、意欲の喚起と学習活動の見通

	<p>5 追究の仕方を知る。 ①手掛かりとなるものを考える。</p>	<p>しを持たせる。 ◇T 2：例示を行う。 ☆テーマである「湯本のすてき」に沿って「スーパー湯本人」（仮称）を選択する視点を具体的に話し合うことができたか。</p>
<p>ま と め 5分</p>	<p>6 次時の予告をする。 ・探し出したスーパー湯本人を紹介することを知る。</p>	<p>・次時の学習活動について知らせる。 ☆「ひと」という視点で湯本のすてきを見つけようとする意欲を持つことができたか。</p>

6 本時の指導

(1) 仮説とのかかわり

本時は仮説1「気づきや課題意識を持たせるための工夫」にかかわって、これまでの学習で出会った人々に対する児童の気持ちを大事に扱うことにより、「ひと」という視点で湯本の素晴らしさを見直すきっかけを作りたい。前單元までの「もの」「こと」とは違い、大人とのかかわりがあまり多くない児童にとって、「ひと」を探し出すことは難しいと考えられる。そこで自らの力で探し出す活動(アンケート調査)を単元の初めに位置付けることにより、より主体的に課題に取り組ませていきたい。

(2) 学習のねらい

「名人」を選択する視点を具体的に話し合い、「ひと」という視点で湯本のすてきを見つけようとする意欲を持つことができたか。

(3) 本時の展開

段階	学習活動・予想される児童の反応	○留意点 ◇支援 ☆評価
導 入 ○ 分	1. パート2の学習を想起する。 ・ 伝統を受け継ぐことは素晴らしい。 ・ 物を大切にすること学んだ。 2. 「ひと」を視点に学習を振り返る。 ・ 広域公園の所長さん ・ 観光ブドウ園の佐々木さん	○「神楽」や「もったいない文庫」の調べ学習を行った児童の感想を生かし、「ひと」への方向づけを行う。 ◇これまで出会った人々を思い出させるために、人材マップを提示する。
活 動 ○ 分	2. 学習のめあてをつかむ。 ① どんな人たちが「湯本のすてき」なのだろう。 ②この人たちを何と呼ぼう。 ③他にどんな人たちがいるだろうか。 名人を見つけよう。 3. 「名人」を見つける方法を考える。 ・ 家の人から聞く。 ・ 歩いて探す。 4. アンケート調査の仕方を知る。	○テーマである「湯本のすてき」に沿って選択の視点を考えさせる。 ・ 願いや考えを持って活動している人 ・ こだわりを持って仕事をしている人 ・ 技を持っている人 ◇「名人」と名付けることにより、意欲の喚起と学習活動の見通しを持たせる。 ◇アンケートの調査の仕方を教える。 ☆テーマである「湯本のすてき」に沿って「名人」を選択する視点を具体的に話し合うことができたか。
ま と	5. 次時の予告をする。 ・ アンケート調査の準備をする。	○次時の学習活動について知らせる。 ☆「ひと」という視点で湯本のすてきを見

め	つけようとする意欲を持つことができたか。
---	----------------------

6 本時の指導

(1) 仮説とのかかわり

本時は仮説1「気づきや課題意識を持たせるための工夫」にかかわって、アンケート調査の結果発表でその内容が具体さに欠けることに気付くように、第1時で提示した人材マップを活用する。これまで出会った人に対する情報量と比較することにより、「名人」に対する関心を持たせ、「どんな人なのか。」「どんなことをしているのか。」「どんな願いをもっているのか。」という視点を持たせることができるのではないかと考えた。

(2) 学習のねらい

自分の気づきをもとに新たな課題を見つける話し合いを行うことができる。

(3) 本時の展開

段階	学習活動・予想される児童の反応	○留意点 ◇支援 ☆評価
導入 ○分	1. これまでの学習を想起し、学習のめあてをつかむ。 [名人を発表しよう。]	○第1時で確認した「名人」の定義を確認させる。 ◇第1時の学習内容を想起させるために、人材マップを提示する。
活動 ○分	2. アンケート調査による結果を発表する。 3. 課題を話し合う。 ・すごい人がある。 ・○○ってなんだろう。 ・どんな人だろう。会ってみたい。 [「名人」と・・・しよう!]	○児童には、自分の気づきをメモしながら発表を聞かせる。 ・すごいなあと思ったこと ・自分の知っていること ・もっと詳しく知りたいこと ◇聞く側にわかりやすいように、人材マップに付け加える資料の形で提示させる。その際、第1時で提示した資料と情報量が比較できるようにまとめさせておく。 ○話し合いの中で、調べたいことの視点を抑えていく。 ・どんな人なのか。 ・具体的な仕事や技の内容 ・どんな願いを持っているのか。 ◇意欲を喚起させる事柄を準備しておく。 ○発表の際にメモした付箋をマッピングさせる。 ☆自分の気づきをもとに新たな課題を見つける話し合いを行うことができたか。

ま と め 分	4. 学習を振り返り、自分たちの湯本についてどう思ったか感想を発表する。 5. 次時の予告をする。 ・調べ活動の計画を立てる。	○次時の学習活動について知らせる。
------------------	---	-------------------

○課題設定場面の展開

ねらい：いかに主体的に課題設定できるか。(方法知)

〈主体的をささえる要素〉

興味・関心の喚起：体験、具体化（五感に訴える：特に視覚化）

身近なものとの比較：自分だったらのおすすめ

目的意識：スローガンのテーマ設定（相手，GOAL，内容を含む）

学習形態：個人あるいはペア、グループ

〈課題設定の段階〉

- ① 方向性、視点をつかむ。
- ② 題材・情報収集
- ③ 思いの深め
- ④ （課題の具体化）

ねらい：湯本には地域をささえたり、一生懸命働いたりしている人がたくさんいることを知る。

(内容知)

〈人との出会い〉 ⇒ スローガンとして「名人」

- ① 児童の身近にいる人
- ② 願いやこだわりを持って生きている人
- ③ 地域のために活動している人
- ④ 技を伝授できる人

〈人との関わり〉 ⇒ スローガンとして「弟子入り」

ともに活動なり仕事なりを体験することにより、素晴らしさを体で学ばせる。

でもどうやって、かかわりたいを引き出すかが問題

ねらい：湯本のすてきをまとめることにより、自分の地域に対する思いを深める。(自分知)

まとめかたをどうするか。

段階のねらいと実態	学習の流れと児童の思い	手立てと支える力
1 方向性を与える	○パート2からの発展 ・神楽 ・田植踊 ・もったいない文庫	* 神楽などを学んだ児童からの感想を生かす。(視点) ・ 伝統を受け継ぐことの素晴らしさ ・ 大切にしているものを持っている素晴らしさ
湯本のすてきひ「ひと」という項目も入るということを知らせる。	様々な人たちが活動しているということ。 地域をささえるために活動している人にたくさん会ってきたね。	
	「ひと」も湯本のすてきではないか。	

<p>〈実態〉大人・人との関わりが少ない、あるいは狭いという現状</p> <p>*視点とヒントを与える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大坊さん ○どんな人たちが湯本のすてきななの？ ・がんばっている人 ・技を持っている人 ○この人たちを何と呼ぼうか。 ・名人 ○ほかにどんな名人を知っているか。 ・スポ少の指導員 →なぜ？ ・近くの老人 ・なかなかみつからない。分からない。→もう、いないのかな。 ・聞いてみよう。→誰から？ ・調べてみよう。→どうやって？ →何を手掛かりに？ ○では、名人を探そう！ 	<p>→視マップ</p> <p>→視点化</p> <p>→スローガン化</p> <p>*視点に沿った選択であるか。</p> <p>*追及方法を導き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いるはず」という思いは視点に戻る。 ・インタビュー ・名人探し (働く姿・物・目印になるもの) <p>→体公園ビンゴのような視点あるいはチェックコーナー付き地図(ウォークラリー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな人 ・何をしているか ・大切にしているもの
<p>② 題材情報収集</p> <p>自分たちの力で視点にそって人々の姿を追う。</p> <p>外を歩いていて、出会える人間がどのくらいいるのか。</p> <p>働く人の姿にも着目するであろう。</p>	<p>○ウォークラリー実施</p> <p>(1) 金矢方面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無人販売 ・バラの専門家 <p>(2) 大畑方面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋さん ・湯本美術館 <p>(3) ○○方面</p>	<p>ウォークラリーを支える力培う力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー ・写真撮影 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース設定 ・班編成 ・時間の確保
<p>③ 思いの深め</p> <p>すごい人がいることを知るから、会ってみたいに意識を深める段階。</p> <p>つまり、子どもは会</p>	<p>○名人を紹介しよう。</p> <p>〈発表の要素〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だれなのか。【写真】 ・何をしているのか。 ・すごいなあと思ったところ。 ・感想 	

<p>ってみたいと思うときはどんなときか。 物・活動自体に興味をもつ時ではないか。そこをいかに具体的に見せるか。</p>		
<p>④ 課題の具体化</p>	<p>○弟子入りをする手順を計画する。</p>	

